

10月になりました。気がつけば 2021年も 残すところ あと3か月足らずです。緊急事態措置が解除され、この土日の人流は 各地で 一気に増加していたようですが、これまでのようなリバウンドが再び起こりませんようにと 切に願い 祈るばかりです。園では変わらず より一層の感染対策に努めて参りますので 御協力をお願い致します。

今年のプレイデイは、例年通り 何とか全員の子ども達で…！と ギリギリまで願い、検討し続けましたが 乳幼児への感染状況において 昨年より不安要素が深刻と判断し、残念ですが 更に縮小した形とし、年長と年中の2クラスのみでの開催に決定しました。特に 幼児の年少組の子ども達とご家族の皆様には、今年こそ！と楽しみにされていたことと 大変心苦しく思っておりますが、ご理解頂きまして 心より感謝申し上げます。りす・ねこ・らっこの各クラスについては、『ミニ・プレイデイ』のような形で 後日それぞれに楽しめるプログラムを計画中ですので、どうぞ ご参加頂ければ幸いです。

さて、小学校では 前期・後期の2期制のため、先週9月30日には成田小学校から 帰って来た学童保育の1年生達(卒園児)が 初めての成績表を持って来てくれました。開いてみると、上段には 国語・算数・体育…など各科目についての 幾つかの評価が ◎・○・△…などの記号で段階別に記された表と、もう1つは 生活面や社会性などを各項目に分け 特に優れているとみられる欄にのみ ○がつけられている表があります。下段には 出席日数などの一覧表、右下に1番小さな『担任の所見』の欄がありました。子ども達は、評価が やはり気になる様子で、友達同士で見せ合いっこをしていました。「～ちゃんは私より◎が多い！」とか「こっちの表の○は ～ちゃんが1番だね」とか 上段の2つの表について互いに比べ合っては「ねっ 先生！」と私に同意を求めました。けれども「あのね この中で1番大事なのは、ここだよ」と 所見の欄を 私が指差すと 一斉に「え～!? なんで～!?」という大きな驚きの声。「だってね、ここには ～先生が ～ちゃんのことを 一生懸命に想いながら 書いてくれているでしょう。嬉しいな」そう答えた後、順番に2回ずつ読みあげました。皆 満面の笑顔で耳を傾けていました。数行ですが、担任の先生の温かなまなざしが子ども1人1人へと注がれたコメントに 保育園生活と同様の姿や その子らしさが目に浮かび、読みながら心がほっとしました。

学校生活は「評価」の連続です。評価は 子ども同士、互いの「比較」に繋がります。

『どんな時でも笑顔になれる (渡辺和子著)』という本に次のような内容が綴られています。

“比較には 有益なものと 有害なものがある。”

たしかに比較という要素は 生活する上で 無くてはならないものです。社会の中での自分が置かれた位置を知ることが出来、競争心が湧いて自らの能力の限界に挑めます。けれども それぞれ違う存在ということを忘れ、ひたすら表面的な優劣にのみ囚われた比較は“人間の 個々の可能性を伸ばす”という教育の目的から遠く離れてしまいます。

“他人に優れようと思うな。他人と違った人間になれ。” (ユダヤの古いことわざより) ”

神様は 生きとし生けるものすべてを違う存在として創られ、その1つ1つを祝福され 愛してくださっています。子ども達1人1人が 神様の愛を信じ 自身の可能性を信じ それぞれの個性を愛しみ のびのびと生き生きと伸ばしていけるよう “有益な比較” で 子どもも大人も 共に楽しめる毎日を工夫し 過ごしていきたいと思います。(石田 記)

「あなたがたは、今しているとおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。(1テサロニケ 4:11)」